

楽団紹介

千葉シニアアンサンブル・それいゆ



■代表 川野正彦 ■設立 2008年6月
 ■活動拠点 千葉市花見川区畑コミュニティセンター
 ■指揮者・指導者 笹森敏明

2008年8月千葉市アマチュア音楽趣味サークルとして発足。中高年を中心としたアンサンブル演奏を楽しみ、健康で生き甲斐のある人生を送っています。活動の目的は ①熟年世代のふれあい ②生涯教育 ③地域貢献とし、きぼーる、県立美術館など県市の文化施設でのイベントや市内の小学校・病院・介護施設などで年間6回ほどの演奏を通じて、地域とのふれあいを大切にしております。現在（公財）千葉市文化振興財団の「アマチュア・アーティストバンクちば」に登録、演奏依頼も増えてきています。

団員数は、32名。平均年齢68才+α（2014年4月7日現在）楽器構成はVn8、Vc2、Cb1、G2、Mn2、Ac1、Cl3、Sax2 Fl5、KB4、Pf 1、Pcn1。多くは若い頃に楽器を習っていたり、吹奏楽部に所属していた経験者ですが、定年後に楽器を始めた人も。ホームページやブログを見て、新たな仲間も増えてきました。また、通常の練習の後に団員だけのミニコンサートを開き担当楽器以外の楽器の演奏や歌を披露したりと団員の意欲はとどまることを知りません。演奏曲目はクラシック、映画音楽、タンゴ、唱歌や歌謡曲など笹森先生に編曲していただき笑顔で演奏を楽しんでいます。

主な演奏会としては、2010年7月に第一回定期演奏会（千葉市民会館）を開催、以降2年おきに定期演奏会を開催。県立美術館そよかぜコンサートではタンゴを披露。多趣味の団員の絵画も展示され好評でした。全国大会では、千葉が主管で2011年10月に千葉県文化会館で開催、続く2013年の宇都宮大会では宇都宮の皆様にはお世話になりました。長年のファンも多く、第二回定期演奏会（2012年7月、京葉銀行文化プラザ）では会場から溢れるほどのお客様にお越しいただき、思い出深い演奏会となりました。現在6月30日の第三回定期演奏会（京葉銀行文化プラザ）に向け練習に励んでいます。



船橋シニアアンサンブル

船橋シニアアンサンブルは、平成21年3月に、50歳以上のアマチュア演奏家が楽器を持参して器楽合奏を楽しもうと、千葉シニアアンサンブルを立ち上げた有志が発起人となって発足されました。千葉県内では、我孫子、柏、松戸、千葉に次ぎ5番目に誕生したシニアアンサンブルです。「楽しく、仲良く、生き生きと」をモットーに、現在28名（男性11名、女性17名）ほどこで活動しています。

楽器の編成は、フルート(4)、クラリネット(2)、ヴァイオリン(7)、チェロ(1)、ギター(2)、マンドリン(3)、キーボード(6)、ピアノ(1)、ベース(1)、ドラムス(1)となっています。特にキーボードは電子楽器ではありますが、曲によってホルン、ファゴットなど他の管楽器や弦楽器を補強する単音楽器の位置づけで、アコースティック楽器との融合によるオーケストラスタイルの楽団を目指しています。このユニークな楽器編成で、その個性を生かしたアレンジに取り組み、新たなハーモニーを創造しようと試みているのが、指揮を執る脇田峻多郎先生です。

現在レパートリーは50曲ほどですが、その中でも先生の編曲による二つのスクリーン・ミュージック・メドレーは、視聴者の脳裏に過去に観賞したシーンを彷彿させる、たいへん聴き応えのある曲となっております。「映画音楽ゴールデンメドレー」は約15分にわたる演奏で、往年の名画の主題曲13曲が編曲されており、一昨年秋の第1回定期演奏会で披露しました。また、シリーズ第2作の「スクリーン・ミュージック・メドレー」は、9月27日(土)に船橋市民文化ホールで開催予定の第2回定期演奏会に向けて練習中で、期待が高まりそうです。

演奏活動を振り返ってみると、市内の介護老人保健施設、アンデルセン公園ステージへの出演など毎年3、4回の訪問演奏活動を行っています。特に震災で被災した福島県いわき市の介護老人保健施設への二度にわたる訪問演奏は、入所者、職員を含めて130名ほどの方々に視聴いただきましたが、たいへん感謝され、良い思い出となっております。

代表：高萩良郎

